

会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成22年度第9回定例会
開催日時	平成22年12月22日（水曜日） 18時30分から20時15分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	<p>会長：大島眞之 副会長：千葉桂子 委員：定盛秀俊、渡辺文子、古賀節子、須磨田純子、柴山隼、森忠、福島憲子、加藤真理、萩原建次郎 職員：相原館長、川口館長補佐、寺嶋分館長、小笠原分館長、玉木分館長、平井分館長、近藤分館長</p>
欠席者	幸内悦夫、西嶋剛昭、上田幸夫
議題	<p>(1) 第8回定例会の記録について (2) 報告事項 1 行政報告 2 事業計画書・報告書について 3 公民館だより編集室報告 4 都公連大会報告 5 都公連委員部会運営委員会報告 (3) 協議事項 1 諮問事項「西東京市公民館の事業評価のあり方について」 (4) 事務連絡および情報交換 (5) 次回の日程について</p>
会議資料の名称	<p>(1) 事業計画書 1 地域力パワーアップ講座（芝久保） 2 ベーシックインカムを考える（ひばり） 3 中国古典講座（芝久保） 4 文学講座「新しい「教科書文学」から読み解く現代社会（谷戸） 5 いきいきセカンドライフ（田無） 6 地域で身近な素材を使った草木染（柳沢） 7 若者より発信 柳沢オールジャンル・フェスティバル（柳沢） (2) 事業報告書 1 親子で感じる音楽遊び（駅前） 2 フードコーディネーターによる料理&食材レッスン 冬の食材編（田無） 3 平和を考える講座（芝久保） 4 芝久保公民館まつり・公民館主催講座（芝久保）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	無し
会議内容	
<p>○会長： 定刻につき、開会する。</p> <p>(1) 第8回定例会の記録について</p> <p>○副会長： 記録の修正についての申し出等を確認する。</p> <p>○職員： 特になし。</p>	

○副会長：
配付した記録のとおりとする。

(2) 報告事項
1 行政報告

○副会長：
報告を受ける。

○館長：
先日の臨時公運審以降の動きを報告する。
5階フロアでの放火事件については、教育長・副市長に報告し、市のホームページにも事件があったことを掲載し、情報の提供等を求めている。館長としては、館内警備の強化について確認し、あわせて警察への巡回警備を依頼した。

○職員：
放火事件があったことに対する掲示はポスターを作って現場と館内各所に貼付している。
臨時会のとくに話した当面の対策だが、まずは5階フロアの印刷機前の机を半減し、椅子は全て片付けた。このため今までのようにあの場で時間を過ごす市民はいなくなったが、今のところそのことに対する苦情は届いていない。もちろん、若干の質問は受けているが、元に戻してほしいといった声はない。また、臨時の利用者懇談会については日程が決まり次第委員各位にも通知するので、ぜひ出席してほしい。

○副会長：
質疑を受ける。
特になければ、終結する。

2 事業計画書・報告書について

○副会長：
質問・意見を受ける。

○委員：
1頁の芝久保の地域力パワーアップ講座は対象が大人ということだと思うが、18歳以上としている根拠は。

○職員：
大学生から対象としたいと思っている。根拠は、自ら主体的に関われる年齢ということだ。

○委員：
5頁の田無公の介護に関する講座だが、初回に自己紹介と夢を語るという内容になっているが、このことと介護がどう結びつくのか。

○職員：
クラス作りの一環で、参加者の動機や講座への期待度等を把握するためのもので、その後の講師の講座内容にも影響してくるものだ。

○委員：
6頁の柳沢公の草木染講座だが、何が目的なのか説明してほしい。草木染を行うだけならば、カル

チャーセンターの講座と変わらないし、環境配慮と書かれているが、内容からも特に環境を配慮した意図が見えない。

○職員：

新人職員が企画した内容である。身近にあるものを使って染を行うということと、周辺地域を知るという趣旨だ。

○委員：

草木染を行う、ということが目的だけなのだと大変に弱く感じる。もう少し、何を学ばせたいのかを書いてほしいし、こうした内容の講座に参加することでどうなるのかも考えるべきだろうと思う。どうして公民館で行わなければならないものなのかが伝わってこない。

それに比して、同じ新人の企画と思うが、7頁の企画書には目的欄に講座を行うべき意思がはっきりと書かれていると思う。この講座が実現すれば、若い人のためになるのであろうことが目に浮かぶ内容だ。

10頁の平和に関する講座に出席した。参加者数は少なかったが職員が自ら大学の研究室に通って学生との連携を深めた点は今後への一步を踏み出せたものと評価したい。来年度につなげてほしい。

○職員：

草木染については、意見を踏まえて研究するよう指導したい。

○委員：

2頁のベーシックインカム講座は、私は個人的には興味のある領域なので参加してみたいと思うが、なぜこの問題を取り上げるのかを説明しないと理解に苦しむ人が出ると思う。社会保障についてさまざまに注目される中だが、別の興味をそそる問いかけも必要なかと思う。言葉の意味がわからなくて参加できないということがないように、この言葉を知らなくても参加しやすいPR法を考えてほしい。

○職員：

だよりには、社会保障政策の1つであるという説明を加えてPRしている。いずれにしても、2回の講座でじっくりと腰をすえて話し合うというのは難しい日程であり、まずは考え方を学んでもらう内容にしていきたい。

○委員：

10頁の平和に関する講座には私も出席した。触れ込みでは、若者の考えが聞けると思って参加したが、その時間は少なく、講師の話が1時間30分も続き、肝心の大学生とのディスカッションの時間は短かった。そのことをアンケートにも記載したが、この報告書ではそのことも触れられていないが、意識的に削除したのかと疑いたくなる。担当の記載欄にも、もっと大学生と触れ合いがあったということがわかるような内容にすべきだ。

○職員：

講座に対する意見は肯定的なものや反省を促すものが上がるが、いずれも載せるのが報告書であり、この点については早速担当者に伝えたいと思う。自分では見えにくい建設的な意見こそが、次の講座につながる要素になると理解している。

○委員：

いいことばかりを意見として連ねていても、出席していなければ理解できなくなる。

○委員：

私もこの講座に参加したが、もっと大学生と話せると思っていたのにそのチャンスは余りなかった。準備に時間をかけて努力した割に、当日にはその意図が伝わらなかったのではないか。もっと大学生の意見を披瀝させるべきだったと思う。

傾聴することも大切だが、話をする事で気付くという学習もあると思う。そのことを大切にすべき講座であったはずだ。苦労は聞いていたし、初回でもあり仕方のない部分もあるだろうが、担当の思いが前面に出過ぎてしまったのではないかと思う。

○委員：

たまたま3人もの委員が出席していたから、硬軟両面からの意見が聞けて理解できた部分だと思う。書面だけだったらと思うと、もっときちんとした報告があがってほしいと感じた。この報告書については、起草委員会の中でも問題になっている。今後は貴重な評価の基準になる資料であり、書き方にも工夫が必要なことは大きなポイントだということが、今のことで理解できる。

担当職員は、それぞれ真剣に報告書を書いていると思うし、もちろん信頼はしている。例えば、20の意見が上がった場合、真剣に取り組んだ講座であればそのほとんどが肯定的な、担当にとっては良い意見だと思う。批判的な内容のものは少数と思うが、その中に参加者としての真剣な内容があったとすれば、自分が考えていた本来の講座の趣旨が適っていたかどうかという事を読むことが可能だ。そのことも含めて、真実をこの場にも伝えることが、正しい方法と思う。

○職員：

現在の企画・報告書のフォーマットもかなり長いこと使っているので、このあたりで見直す必要がある。その中で、書き方についても研修をしながら研究したい。

○副会長：

他になければ、終結する。

3 公民館だより編集室報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

12月1日に開催した。

12月号のカラスヤサトシ氏の紙面は面白く読めたのではないか。会議時点では発行直後で反省点はなかった。1月号は、高校生の対談記事を予定している。

利用者懇談会の報告記事を掲載したが、懇談会に対する意識を変えるきっかけになればと思っている。

2月号は地場野菜のキャベツについて記事にしたい。私も知らなかったことだが、収穫量が都内第2位、多摩地区1位と聞く。キャベツにまつわる食文化について紹介する記事にしたい。サークル訪問は、トールペイントのダブルハート。団体連絡箱の調整に関する記事も掲載予定だ。

○副会長：

質疑を受ける。

先月の会議でサークル訪問についてさまざまな意見が出たと思うので、編集委員はそのときに意見を参考に会議を進めてほしい。特にないようであれば、終結する。

4 都公連大会報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

大会企画委員会については1月に反省会があるので、そのときの参考としたいので、本日意見を述べてほしい。

○委員：

第5分科会に参加した。

地域で青少年のための活動をしているが、若者の居場所に関して、大人が作るものでよいのかという疑問を持っていた。参加して、居場所とは「箱」だけでなく、心がホッとする環境や取り組みであることが理解できた。そのためにも、大人が子どもを理解することが大切であることも学べた。今の子どもたちの置かれている状況を知ることが大切だろうと思う。芝久保で1月に行われるネットワーク講座の土台になる内容で参考になった。

○委員：

第5分科会に参加した。

助言者の話が聞きたくて参加したところ、稲城市の事例報告の内容の素晴らしさに感激した。若者の居場所づくりを手がけて10年以上と聞く、大変な役割だと思う。参加者名簿を作っても、自分の苗字すらまともに書かないで参加してくる若者でも寛容に受け入れる態度、総勢6人で全てが女性という。人数の少なさにも驚いたが、たまに男性がボランティアを希望しても、1~2回で子どもたちとの会話が途切れてしまっていて継続できないということだ。そうした状況にもかかわらず10年の継続的な支援に対して頭が下がった。

○委員：

第3分科会に参加した。

私もいずれは通る道と思い参加した。日野市の報告に「無理なく、自然体の声かけ、お茶飲みからのスタートがネットを広げる」というコンセプトにわかりやすさを感じた。例えば、カメラが得意な人がいれば直ぐに講師になる。講師という名称は重荷と考え、案内人という呼称にしているという。趣味で、無理なく広げること考え、今では公民館だけでは足りないという。

対して西東京市のきらっとシニアの事例。地元のことであり、よく承知していたつもりだが、参加者はリタイアというくりではなく、今を謳歌するという理念、学びから発展していくと聞いた。たまたま出版業の人が多く集まったので、新聞づくりをはじめたが、興味があることなのでドンドンと広がっているという。どこまでできるかは考えていないそうだ。

運営面だが、グループ討議の内容を箇条書きで配付してくれたが、他のグループとの差異が良く理解できた。

○委員：

第2分科会に参加した。

福生の公運審委員の報告を受けた。福生のホームページには、情報の伝わりということ意識して英語と中国語に翻訳できる機能が付いているという。市報も読み上げ機能のある端末機が対応するマークを付けて、伝えるということに工夫している。

反面、ハード面の優しさという点からは、例えば車椅子にとって優しい施設ということを実現するためには、計画時から当事者が加わる必要について述べられた。

助言者から「誰にでも優しい」といったときの「誰」を考える際に、具体的にどのような人を対象とするのかをイメージする必要があるといわれた。施設であれば、必ずしも来ることができる人ばかりではない。誰にでも優しいということをより具体的に考えることが重要と学んだ。

また、著作権に触れることもあると思うが、可能な限りクリアする方法を講じてほしい。公民館職員は、できない理由を考えるのではなく、できるための理由を考えてほしいとも言われた。

全体の運営についてだが、今年は課題別集会のみの大会になっているが、他の集会の話聞く機会を設けてほしい。

○委員：

第3分科会に参加した。

全員で歌ったり、和やかに進化した。日野市の事例から、住民のゆるい関係が長続きする秘訣であることが理解できた。西東京の事例は、住民の行政への提言を目的とする面もあり、対照的だったが、助言者から、手法は異なるが、人と人がつながる喜び、仲間作りの大切さと無料の原則が持続のポイントであると学んだ。

○委員：

第2分科会に参加した。

今回のテーマである「誰にでも」とは誰なのか。奇麗事ではなく、具体的な検討をすべきと確認した。例えば、自分に危害を加える人は「誰にでも」には該当しない訳で、誰にでもといっても、何でも認めてしまうということではない。具体的に1つ1つ考えることが大事だ。誰にでもという言葉で、何でも入れてしまうことが本当かどうかを気付かせてもらった。

また、社教法第23条によって、政治をタブー視する傾向が見られるが、確かに特定政党の活動の支援は禁じられているが、学習として政治を考えることは大事な事。特に、戦争を語るることについてもっと積極的に取り組むべきことを学んだ。公民館の役割は、戦争を伝えることだと言われた。地域の大切な戦争の記録を残すことも必要だと感じた。

グループでの話し合いでは、高齢のために外に出られない人に対して、ハンディのある人のことなど、具体的に考える時間を与えてもらった。

○会長：

第2分科会に参加した。

助言者のユニークな経歴や口調、考え方に引かれた。グループ討議の中でも「誰にでも」の対象者として障害者と少年を上げる人が多かったが、本当に障害者に優しい公民館なのだろうか。実際には障害者のためになっていない施設・設備もあり、全ての人に優しいということにはならない。

また、職員は、できない理由ではなく、できるための方法を考えるべきとの言葉に納得した。

○副会長：

第3分科会に参加した。

きらっとシニアだが、行政も認知するだけの住民活動を公民館講座からのスタートであるという点に公運審としても誇りに思う。日野市は、誰もがができる事柄でつないできた営みを次世代に伝えることが大切だと思う。いずれのケースも、身近に無料の公民館があるということが大切である点は共通していた。

○委員：

第5分科会の助言者として参加した。

午前グループ討議、午後に事例報告という順番にした。最初に今の若者について、参加者がどう考えているのかについての問いを投げかけてのグループ討議であったために、短い時間の割には完成度の高い討論が行われた。全員が課題別集会のテーマを共有できたことが成果であった。

反省点としては、せっかく書かれているアンケート用紙を早々と大会本部が持ち帰ってしまい、当日に読むことができなかった。生の声が聞けるチャンスを逃した。

○副会長：

他になければ、終結する。

5 都公連委員部会運営委員会報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

12月6日に開催し、2月の委員研修会の研修内容について確認をした。

2月26日に昭島市公民館において行われる。研修会終了後に公民館の喫茶コーナーで懇談会を行う予定なので、そちらにもぜひ出席してほしい。

○副会長：

質疑を受ける。特になければ、終結する。暫時休憩する。

(19時40分休憩)

(19時45分再開)

(3) 協議事項

1 諮問事項「西東京市公民館の事業評価のあり方について」

○会長：

再開する。起草委員の報告を求める。

○委員（座長）：

まずは、順調に進行していることを報告したい。

初回は11月29日に開催し、座長、副座長等の役割分担と今後の審議予定および会場の確保を中心に審議した。年度末までに12回程度の会議を予定している。審議の中で、先進市である福生市の職員の話聞く機会を持つ予定も決めた。

審議期間も短いので、早速具体的な協議をスタートした。まずは、各起草委員の諮問事項に対する考えを述べてもらい、今後の審議の方向性を見極めようと考えた。

そこで整理できたことは、まずは何のために評価をするのか、次に公民館を良く使っている人と全く使っていない人からの評価はどう考えるべきかなどが意見として出た。各委員の評価に対するイメージを語った。

2回目は12月13日に開催。第1回臨時公運審の後に行い、なぜ諮問するに至ったかと職員の評価に対する考えの報告を受けた。3点の考えについて報告があり、「誰が」「何を」「誰のために」行うことが相応しいのかを中心に質疑をした。評価を行うことで職員の力量形成に資することが期待できること、また客観的なものであり、誰が見ても同じように感じられること、そして社会教育的な視点が必要である点について議論を尽くした。

3回目は12月20日に開催。2回目に引き続き、公民館の目的や勤務内容等について質疑を続けた。公民館は学級講座の実施と地域交流の2つの大きな機能を持っており、また、見えにくい部分として施設管理の仕事量も見過ごすことができない。さらには窓口での学習相談も担っているが、全てにおいて職員の力量に左右される事項である。個人の職員の力量形成も必要であるが、集団として取り組むことが大切であり、職員が共通の認識を持って仕事に取り組むことが大切であり、そこを評価することになると考えたい。

次回は1月12日に予定しており、職員の考える公民館像や社会教育について考えを聞いて質疑を行う予定だ。

○委員：

報告を聞いていて私も疑問に思っていたことが出ていたが、公民館を利用していない人の評価についてはどう扱うのか、確認したい。

福生市の職員を呼ぶ予定というが、その回だけでも参加することは出来るのか。

○委員（座長）：

まだ結論に至ってはいないが、利用していない人の意見を全く考えずに評価の基準を求めることはできないと感じている。

福生市の職員との意見交流であるが、私たちの考えがまとまった上で実施したいと考えており、あくまで予定である。開催が決まれば、そのときに知らせたい。

○委員：

口頭の報告も必要と思うが、できれば簡単なペーパーがあると理解しやすいと思う。

○委員（座長）：

議事録を作っているので、それを配付したいと思う。

○委員：

答申までの期間が短いので大変であると思う。期待している。職員の関わりはどうか。

○職員：

担当を決めて出席しているが、今のところ職員側の考えを述べている段階だ。

○委員：

話を聞いているだけでなく、順調に審議も進んでいる。既に3回の議論も終わっているが、定例会での各委員の事業評価に対する意見を述べられているが、その点も踏まえていることを付け加えたい。

今後難しいと思われるのは、そうしたさまざまな意見をどうまとめ、さらに文章化することだと思う。近日中には、どういう構成の答申文にすることが話題になると思う。起草委員会ではきちんとディスカッションしている。さまざまな角度から質疑をしており、私たちが評価をどう捉えているのかが今後のポイントになる。

議事録を配付することになったが、この中にはまだ未確定な意見も多く含まれていることを理解して読んでほしい。

○会長：

他になければ、終結する。

(4) 事務連絡および情報交換

○会長：

事務連絡、情報交換を議題とする。

(特になし)

(5) 次回の日程について

1月26日（水曜日）18時30分

於：田無公民館 第2学習室

○会長：

他に意見がなければ、閉会とする。